

## 事業報告

講座名	水辺のいきもの観察		
日時	平成21年 7月18日(土) 13:00~15:30		
場所	周南市大田原	参加者数	27人
共催者	ツルの里いきもの研究会 代表 半田 智子		

### 1 活動内容

13:00~13:30 水生生物についての講話

共催講座「水辺のいきもの観察」を実施しました。

初めに、後藤講師より河川と水生生物との関わりについての説明があり、きれいな水を好む水生生物には、カゲロウ類、カワゲラ類、トビケラ類、甲虫類のヒラタドロムシ、ヤマトシジミなどの貝類、サワガニなどの甲殻類、流水性トンボのヤゴ、プラナリアやゲンジボタルの幼虫などがいるとの説明がありました。

きれいな水やきたない水とは、水の中にとけ込んでいる酸素量や栄養塩類等の量によって区分され、水の濁りも影響しています。きれいな水が流れる川は、水温が低く溶存酸素量が多いが、きたない水が流れる川は溶存酸素量が少ないため、その酸素量の大小に適応した生物が棲み分けを行うことから、生息する生物を調べることによってその河川の水質を判定することが出来ます。



水生生物の採集法についての説明



水生生物を採集する参加者

水生生物は春先から夏場にかけて羽化し、この時期は羽化直後のため大きく成長したものがあがりません。それでも、数年水辺に留まり成長し大きくなるものもいて、大小共に見逃さないようにする必要があります。

採集方法については、川下にザルを据え上流部の手頃な大きさの石をザルの中に移し、表面に付着した水生昆虫をバットに移して行きます。採集後、指標生物の捕獲数をカウントし、あわせて指標種以外の生物についても名称を記録します。



水生生物を採集する参加者



水生生物を採集する参加者

### 13:30～14:30 水辺の水生生物調査

参加者は、家族単位で水生生物の採集を行いました。雨による増水や危険な箇所など無く快適に採集が出来ました。

周囲の環境は、常緑樹と落葉樹が平均した植生の広葉樹林で、樹林に囲まれた溪流の川幅は平均4m、水深は平均で20cm、川の水も冷たく透明度も高くよい環境でした。

### 14:30～15:30 水質判定とふりかえり

採集された生物の同定作業を行いました。指標生物で採集されたものは、サワガニ、カワゲラ、ナガレトビケラ、ヒラタカゲロウ、ブユ、ヤマトビケラ、ヒラタドROMシ、ヒルでした。夏場でもあり体長が1cm程度の小型の生物がほとんどで、その特徴などはルーペを使って観察しました。指標生物の中で捕獲数の多かったものは、サワガニとヒラタカゲロウで、調査結果をもとに水質階級の判定を行った結果、調査地点の水質階級は「きれいな水」という結果が得られました。

きれいな川を汚してしまうと水生生物がいなくなってしまう。生きものが水を浄化しながら水環境を良くしているので、川をきれいに保って欲しいという説明がありました。



水生生物の同定



水生生物調査結果の集計